



関連部署にご回覧ください

LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート

第47号 July 2013

☆ 挨拶	
◆松澤新理事長 就任挨拶	1
☆ トピックス	
◆第23回LPGC研究成果等発表会開催のご案内	2
◆平成25年度第一回理事会及び定時評議員会等の開催報告	3
◆平成25年6月改選の新役員	3
☆ プロジェクトニュース	
国際関係	
◆「LPガス国際セミナー2013」開催結果報告	5
◆中国LPG国際会議報告	6
調査研究	
◆平成24年度「石油ガス流通・販売業経営実態調査」報告	7
◆平成24年度「石油ガス消費者実態調査」報告	9
広報	
◆平成25年度「LPガス講習会」の開催案内	11
◆平成25年度「液化石油ガス地方懇談会」の紹介	11
◆本年「LPガスのある暮らし2013年」の紹介	11
◆平成25年度LPガス広報企画委員会の開催	11
☆ 編集後記	12

就任挨拶



このたびエルピーガス振興センター理事長に就任いたしました。LPガス業界の発展のために尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

一昨年の東日本大震災と原発事故を契機に、わが国のエネルギー政策が見直されることとなり、各種の委員会が開催され、様々な検討がなされてまいりました。エネルギー基本計画については今なお検討が継続されているところです。

この中で、LPガスに関しては、「安定供給の確保、高効率LPガス利用機器の自治体と連携しての普及推進、災害対応能力の強化」との重点施策が指摘されています。

これらは、実現に向けて積極的に取り組むべき最重要課題であると考えております。また、電力やガス等の公益事業のシステム改革についても検討が進んでおり、こうした流れは、LPガス業界へも有形無形の影響が今後出てくるものと思われれます。

海外に目を転じますと、アジア、新興国等を中心に世界的なエネルギー需要の高まりや、非在来型天然ガスであるシェールガスの開発進展等により、国際的なエネルギーフローが大きく変わろうとしております。日本においても、米国からのLPガス輸入に向けての動きが始まっており、従来の中東に依存していた供給体制からの脱皮、ひいてはLPガスの輸入価格システムそのものの変革に繋がる可能性もあります。

エルピーガス振興センターは、平成元年の設立以来、わが国経済の発展と国民生活の向上を目的としてLPガスに関する技術開発、調査研究、普及啓発、国際協力等に取り組んでまいりました。こうした国内外のエネルギー情勢の変化や各種の課題に対応し、LPガス産業の活性化に向けての役割を果たすべく、事業を展開してまいりたいと思います。

LPガス業界はもとより、一般家庭の消費者の方々、産業界の需要家の方々の多様なご要望にお応えできるよう、皆様のご意見を踏まえながら事業を進めてまいる所存です。是非、賛助会員をはじめ皆様方の一層のご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成 25 年 7 月

一般財団法人 エルピーガス振興センター

理事長 松澤 純

◆第23回 LPGC 研究成果等発表会開催のご案内

毎年恒例の「研究成果等発表会」を下記の日程にて開催致します。

特別講演には 東洋大学 経営学部 教授 石井晴夫氏、立教大学 コミュニティ福祉学部 兼任講師 山崎 敏氏のお二人をお招きし、講演していただきます。ご多忙の折とは存じますが、皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 : 平成25年10月8日(火) 13:15~16:40
2. 会 場 : 虎ノ門ツインビルディング カンファレンスホール
東京都港区虎ノ門 2-10-1 B1F

3. プログラム :

開会挨拶 一般財団法人エルピーガス振興センター 理事長 松澤 純	13:15~13:20
来賓挨拶 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部石油流通課 企画官 小島暢夫 氏	13:20~13:25
講 演	
1.【特別講演】 「今、求められるLPガス業界の新しいビジネスモデルについて」 東洋大学 経営学部 教授 石井晴夫氏	13:25~14:25
2. 24年度石油ガス流通・販売業経営実態調査 結果報告 ～事業規模の大小による、経営状況や販売動向の違いについて～ 調査研究部 総括主任研究員 八鍬隆宏	14:25~14:55
—◆◆— コーヒー ブレイク —◆◆—	14:55~15:05
3. 24年度石油ガス消費者実態調査 結果報告 ～消費者(家庭用、業務用)目線で見えたLPガスへの意識・動向について～ 技術開発部 次長 小山康雄	15:05~15:35
4.【特別講演】 「これからの超高齢社会における介護施設の方向とエネルギーの考え方」 立教大学 コミュニティ福祉学部 兼任講師 株式会社トシ・ヤマサキまちづくり総合研究所 代表取締役社長 山崎 敏氏	15:35~16:05
5. 東アジアのLPガス需給バランスの中期的展望 ～変化を見せ始めたLPガスフロー～ 調査研究部 総括主任研究員 宮 恭久	16:05~16:35
閉会挨拶 一般財団法人エルピーガス振興センター 専務理事 菊岡栄次	16:35~16:40

4. 参 加 費 : 5,000円/名(予定)
5. お申込方法 : 7月下旬に賛助会員様には開催のご案内を郵送いたしますので、同封の「申込書」でお申込みください。また、ホームページからも「申込書」のダウンロードが出来ますので、そちらからのお申し込みも可能となっております。
尚、定員になり次第、締め切らせていただきます。
6. 申 込 期 限 : 9月27日(金)

◆平成25年度第一回理事会及び定時評議員会等の開催報告

一般財団法人エルピーガス振興センターの「平成25年度第一回理事会」が、去る6月13日に開催され、平成24年度事業報告及び決算報告の件、理事選任の件、監事選任の件、評議員選任の件、定時評議員会招集の件の議案を審議し、全会一致で承認をいただきました。

また、6月28日に「平成25年度定時評議員会」が開催され、山崎理事長の挨拶後、下記4議案の審議を行い、全ての議案は全会一致で承認され、滞りなく終了致しました。

記

- 第1号議案** 平成24年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の件
 ……平成24年度事業の実施結果を総括して収支決算をまとめた結果、当期末(平成25年3月31日現在)の正味財産額は374,221千円となり、前期末より54,689千円の減少となりました。
- 第2号議案** 理事選任の件
 ……今回は理事の改選期にあたり、新しく理事が選任されました。
- 第3号議案** 監事選任の件
 ……今回は監事の改選期にあたり、新しく監事が選任されました。
- 第4号議案** 評議員選任の件
 ……今回は評議員の改選期ではありませんが、日協の役員体制に異動があり、それに伴う変更です。

◆平成25年6月改選の新役員

理事名簿

(敬称略、順不同)

松澤 純	ENEOSグローブ株式会社	代表取締役社長 社長執行役員
菊岡 栄次	一般財団法人エルピーガス振興センター	専務理事
岩谷 直樹	岩谷産業株式会社	取締役 総合エネルギー事業本部 副本部長
吉山 彰二	株式会社ジャパンガスエナジー	取締役常務執行役員
富田 浩史	昭和シェル石油株式会社	ホームソリューション部長
野口 栄	全国農業協同組合連合会	燃料部長
星崎 友洋	東京ガス株式会社	原料部 原料調達担当副本部長
坂本 篤	日鉱液化ガス株式会社	代表取締役社長
布施 俊郎	伊丹産業株式会社	取締役 ガス事業部 LPガス部長
林田 弘	伊藤忠エネクス株式会社	執行役員トータルホームライフ事業本部 副本部長
川本 知彦	株式会社サイサン	代表取締役副社長
高村 雅人	シナネン株式会社	執行役員 営業統括部長 兼 SS部長

鴫田 勝彦	株式会社TOKAIホールディングス	代表取締役社長
田中 宏昌	東京ガスエネルギー株式会社	代表取締役社長
高橋 英雄	日通商事株式会社	LPガス部 担当部長
藤村 孝明	株式会社ミツウロコ	取締役兼常務執行役員
椿 貴喜	一般社団法人全国LPガス協会	理事(副会長)
小山 秀昭	一般社団法人全国LPガス協会	理事(副会長)
高須賀 秀行	一般社団法人全国LPガス協会	理事(執行役員)
大野 栄一	一般社団法人全国LPガス協会	専務理事
榎本 正徳	一般社団法人日本エルピーガス供給機器工業会	専務理事
横田 幸治	鹿島建設株式会社	土木営業本部 副本部長
池内 義彦	大成建設株式会社	土木営業本部 統括営業部長
伊藤 浩吉	一般財団法人日本エネルギー経済研究所	研究顧問

(24名)

監事名簿

(敬称略、順不同)

中山 一仁	アストモスエネルギー株式会社	常務取締役 管理本部長
長屋 秀美	コスモ石油ガス株式会社	総務部長

(2名)

評議員名簿

(敬称略・順不同)

北嶋 一郎	一般社団法人全国LPガス協会	会長
谷本 光博	一般社団法人全国LPガス協会	副会長
山崎 達彦	日本LPガス協会	会長
石野 雅義	日本LPガス協会	副会長
作田 颯治	高圧ガス保安協会	会長

(5名)

■平成25年7月5日の理事会(書面決議)で新しい理事長、専務理事、事務局長が選定されました。

理事長…松澤 純

専務理事…菊岡 栄次

事務局長…大森 栄治

プロジェクトニュース

国際関係

◆「LPガス国際セミナー2013」開催結果報告

当センターでは、国際交流事業の一環として、平成25年2月28日～3月1日に第一ホテル東京に於いて『LPガス国際セミナー2013』を開催いたしました。



高原長官

今年は、『変わりゆくエネルギーフロー～LPガスの役割と責任』をテーマとし、中東のLPガス主要輸出国、アジアのLPガス主要消費国や米国のガス・ミッドストリーム企業等のLPガス関係会社／機関等から多くの方々に講演していただきました。580名強の皆様に参加いただきメイン会場は満員御礼といった盛況となり、名実ともに世界のLPガス国際セミナーへと成長しつつあります。

セミナーでは昨年同様、資源エネルギー庁長官の高原一郎氏から歓迎挨拶をいただきました。

本セミナーでは、中東産ガス国の生産・輸出の展望に始まり、シェールガス随伴のLPガスの将来やパナマ運河の拡張工事の進捗など、わが国のLPガスマーケットに影響を与える「変わりゆくエネルギーフロー」について講演があり、またアジアのマーケットではLPガス転換により大幅な需要増を実現した国の話や今後PDHのプロジェクトによりプロパンの輸入が急増する国のトピックスもありました。各講演は世界のLPガスの需要供給のダイナミズムのなかでわが国の業界が持続可能な成長を実現するための示唆を与えてくれたものと思います。



国際セミナー2013会場風景

また、参加者から要望の強かったカラー版の講演資料をセミナー後に当センターのHPにアップし、好評を博しております。

【基調講演】アイ・エイチ・エス社(米国)

【海外講演者】世界LPガス協会(フランス)、Saudi Aramco(サウジアラビア)、Tasweeq(カタール)、タルガ・リソーシーズ(米国)、広東油気商会(中国)、インドオートLPガス連盟(インド)、SKガスインターナショナル(韓国)、プルタミナ(インドネシア)、ジョアキム・グリーク(ノルウェー)、OPIS(シンガポール)、PERC(米国)、ファクツ・グローバル・エナジー(シンガポール)他

【日本講演者】経済産業省、日本LPガス協会

【内 容】基調講演(1)、日本側・海外招聘者の講演(14)、個別&総括質疑応答

(調査研究部 岩田総括主任研究員)

◆中国 LPG 国際会議報告

4月15日から1週間上海と北京を訪問し、上海で開催された広東油気商会主催「第18回中国 LPG 国際会議」に参加すると共に、上海では ICIS China、北京では中国都市ガス協会 LPG 委員会と面談をいたしました。

(1) 中国LPG国際会議

プログラムは次の通りです。この内⑥・⑦・⑩は LPG 深加工に関する講演で、中国における LPG の石化利用の現状と今後の展開を理解する一助となりました。また⑨は、オランダ資本 SHV 社による中国国内における LPG 流通・卸・小売り分野での営業活動状況と今後の目標に関する発表でした。

プレゼン資料(PDF)は中国語・英語共に当センターホームページにアップ済みです。是非ご覧ください。

なお、①FGE 社、②タルガ社、④OPIS 社の講演内容は、2 月末に行われた LP ガス国際セミナーとほとんど同じ内容でした。

今回の会議は、ちょうど鳥インフルエンザ騒ぎの真っ最中で海外からの参加者が当初申込み数から大幅に減り、結局 150 名程度の参加者でした。中国内各地の PDH 企業の殆どが参加していましたが、日本を含む海外のトレーダーとの個別ミーティングが忙しかったようで、会場ではあまり顔を合わす機会がありませんでした。



第 18 回中国 LPG 国際会議プログラム	
① Colin Shelley/FGE	LPG と化学品
② Scott Pryor/Targa	米国ミッドストリーム の最新状況と LPF 輸出見通し
③ Crystal Chan/IHS Fairplay	VLGC マーケット見通し
④ Ronald Kwon/OPIS	変化の風—LPG 価格評価
⑤ Tian Chunrong/SINOPEC	中国 LPG 市場の概況と見通し
⑥ Chai Qinhu/宏源証券	中国の C3・C4 デリバティブ考察
⑦ Yu Chunmei/CNPC 吉林設計院	C4 資源の包括的な利用状況と製品選択の分析
⑧ David Tyler/WLPGA	LP ガス産業への挑戦と機会
⑨ Kees Dekker/SHV	中国産業発展の展望
⑩ Chen Dapeng/大連商品交易所	成長のための避難場所と変化する LPG 市場
⑪ Wei Guangming/東華能源	
⑫ Jeremiah Chan/Argus Media	エネルギーと商品の価格水準基準
⑬ Zhang Zuyi/西南海洋運輸	中国国内船舶市場

(2) ICIS China

1. 中国の PDH プロジェクト状況について各推進企業に直接、定期的に聞き取り調査を行っているとの事。現時点で8案件が建設中で 2015 年までに稼働予定、プロピレン生産能力は 530 万トンでプロパン需要 640 万トンの見込み。
2. 中国で 4 社目の PDH 企業が米国産プロパンを長期契約価格はモントベルビュー価格 +\$15/bbl との事で、CP 対比でそれほど魅力的な価格ではなくなっている。

(3) 中国都市ガス協会 LPG 委員会

1. DME の民生用 LPG への混入問題に関して、国家基準原案がすでに国務院に上程され最終批准待ち。夏頃には正式発布となる見込み。混入比率は最大 20%、シリンダーも専用シリンダーを使用する事になる。
2. 中国自動車産業においては、LPG 車よりも天然ガス車(CNG/LNG)の普及が進んでおり、LPG 需要拡大の面から巻き返しを図りたいと考えているとの事。

(調査研究部 宮 総括主任研究員)

調査研究

◆平成24年度「石油ガス流通・販売業経営実態調査」報告

本調査は、LPガスの流通・販売業の実態を把握するために実施しているものです。

あなたは、現在の業界の実情がどのようなものかわかりますか？是非、以下の質問にチャレンジしてみてください。

1) 経年調査編

- (1) 販売事業所に従事している人員は、平均すると一体何人？
①2人 ②3人 ③4人 ④5人 ⑤6～9人
- (2) 得意先の家庭用月平均使用量は、一体何m³？
①5m³未満 ②10m³未満 ③15m³未満 ④20m³未満 ⑤25m³未満
- (3) 1販売事業所の家庭用得意先戸数は、一体何戸？
①150戸以下 ②300戸以下 ③600戸以下 ④1,000戸以下 ⑤2,000戸以下
- (4) 1販売事業所の平均年間販売数量は、一体何トン？
①10トン未満 ②25トン未満 ③50トン未満 ④75トン未満 ⑤100トン未満
- (5) 小売価格は、戸建住宅向けと集合住宅向けでどちらが高い？
①戸建住宅向け ②集合住宅向け ③変わらない
- (6) 従量単価は、戸建住宅向けと集合住宅向けでどちらが高い？
①戸建住宅向け ②集合住宅向け ③変わらない
- (7) 基本料金は、戸建住宅向けと集合住宅向けでどちらが高い？
①戸建住宅向け ②集合住宅向け ③変わらない
- (8) LP販売事業を営む会社の経常利益は、平均すると一体何%？
①0%以下(赤字) ②0～10%未満 ③10～20%未満
- (9) 近い将来廃業を考えている販売事業者は、どれくらいいるの？
①5% ②1割 ③2割 ④4分の1 ⑤3分の1
- (10) 廃業する場合、どこに引き取ってもらうの？
①仕入先 ②保安が良い事業者 ③高く買い取ってくれる事業者

2) 大規模事業者/小規模事業者比較編

- (1) 小売価格:戸建住宅向け価格は、どちらが高い？
①大規模事業者 ②小規模事業者 ③変わらない
- (2) 小売価格:集合住宅向け価格は、どちらが高い？
①大規模事業者 ②小規模事業者 ③変わらない
- (3) 小売価格:従量単価は、どちらが高い？
①大規模事業者 ②小規模事業者 ③変わらない
- (4) 小売価格:基本料金は、どちらが高い？
①大規模事業者 ②小規模事業者 ③変わらない
- (5) 料金表の種類:小規模事業者は何種類が多い？

①1種類 ②2種類 ③3種類 ④5種類 ⑤6～9種類

(6) 料金表の種類:大規模事業者は何種類?

①5種類以下 ②6～10種類 ③11～20種類 ④21～50種類 ⑤51種類以上

(7) 販売数量、得意先戸数状況について、正しい記載には○、誤った記載には×をつけよ。

- 拡大への取組に差があり、小規模事業者は殆ど取り組めていない。()
- 小規模事業者は8割が減少傾向であり、増加傾向の事業者はほとんどいない。()
- 大規模事業者は6割が減少傾向だが、4分の1強が増加傾向。()
- 増加傾向の大規模事業者が残りの事業者顧客を取り込んでいる。()
- 同業者間顧客移動は大規模事業者どおしで発生している。()
- 小規模事業者は顧客の高齢化が戸数減の主因となっている。()

(8) 高効率・省エネ

(9) 機器の普及状況について、以下の記載が正しければ○、誤っていれば×をつけよ。

- 実績、取組とも圧倒的に大規模事業者が主導的である。()

(10) 保安対策について、以下の記載が正しければ○、誤っていれば×をつけよ。

- 大規模事業者、小規模事業者とも意欲は十分である。()
- 取組は大規模事業者の積極性が目立っている。()

☆☆これらの答えは24年度の調査ですべて明らかになっています。

10月8日の第23回LPGC研究成果等発表会で解説しますので、是非ご参加ください！！☆☆

○ 最新のEMS機器“テレマティクス”について

テレマティクスはデジタルタコグラフとドライブレコーダーの機能にGPS機能が装備されており、速度警告や急発進・急加減速等の配送員の運転状況の把握及びデータ化のほか、パソコンで車両の現在位置が確認でき、地震等の災害時発生時にも車両の安全誘導が可能なEMS機器です。そのことから、中核充てん所の配送車両への導入がまず期待されます。



さらにイニシャルコスト、ランニングコストとも低額なため、配送事業者をはじめ販売事業者においても導入後のエコドライブ実施による燃費改善効果から初期投資の早期な回収が可能です。容器配送の大幅な効率化・合理化のためにもLPガス業界全体へのいちはやい普及が期待されます。

(調査研究部 八鍬総括主任研究員)

◆平成24年度「石油ガス消費者実態調査」報告

本調査では、全国の家庭用・業務用LPガス消費者に対し、エネルギー消費実態等に関するアンケート並びに面談ヒアリングを実施し、分析及び結果の取りまとめを行いました。

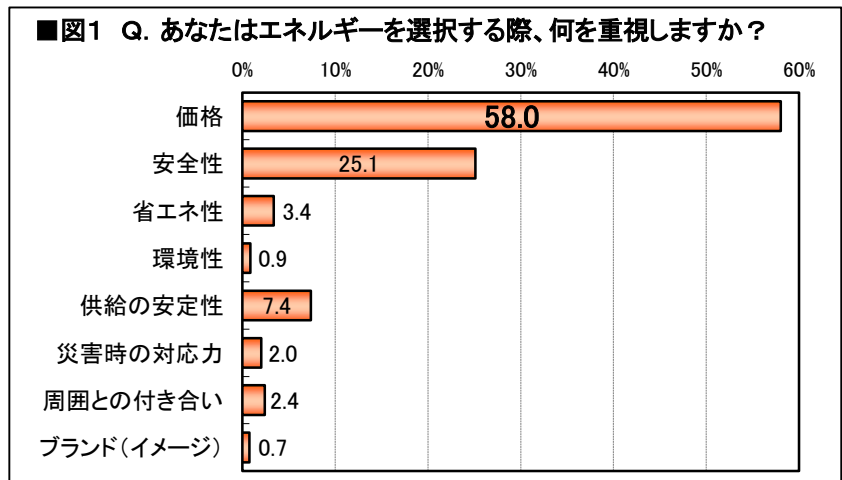
前回のLPGレポートでは、調査の目的や概要等についてご紹介いたしました。今回は調査結果の概要について、いくつかご紹介いたします。

トピックス1

消費者の価格不満は、「高い」と「不透明」 (家庭用調査結果)

右のグラフで示すとおり、LPガス消費者のエネルギーに対する関心は半数以上が価格にあります。これは、LPガス価格に対して多少でも不満に感じていることの表れではないでしょうか。

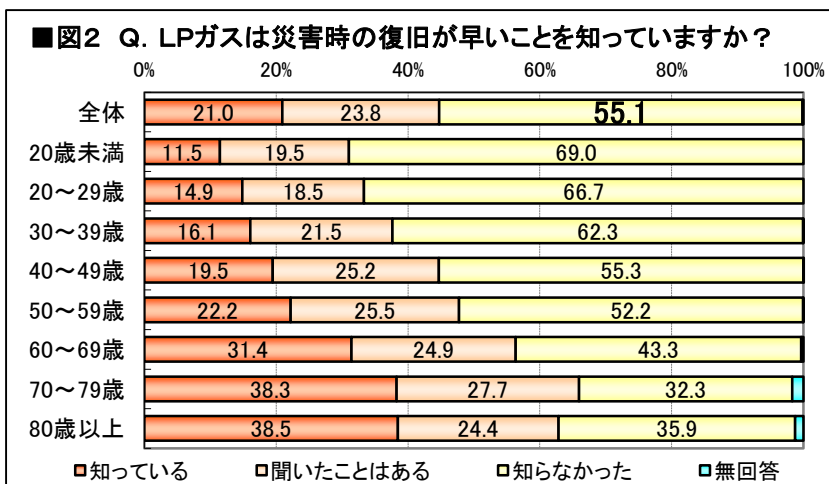
しかしこの結果は、必ずしも価格が「高い」ということだけが理由ではないようです。自由回答や面談ヒアリングの意見では、「高い」ということだけでなく、「不透明である」という声も多く出されました。



適正価格による販売はもちろんですが、使用量や価格体系の「見える化」を積極的に進める必要性が感じられます。

トピックス2

消費者に届いていない、LPガス業界のメッセージ (家庭用調査結果)



左のグラフを見ると、LPガスは災害時の復旧が早いということは、LPガス利用者でさえ半数以上が知りませんでした。特に、若い世代ほど情報が届いていない様子が分かります。

一方、上掲(図1)のグラフでは、LPガス業界が積極的にPRする「災害対応力」や「環境性」は、エネルギー選択においてあまり重視されないという結果も出ています。面談ヒアリングでも「非常時よりもまず日常が大事」という声もありました。

生活を支えるエネルギーとして、災害対応力や環境性は重要です。しかし、そのメッセージは消費者へ適切に届いているのでしょうか。発信方法の見誤りはないか、もっと前面に出すべきLPガスの良さははないのかなど、再度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

トピックス3

震災を機に、高まる省エネ(節電)機器の導入意向 (業務用調査結果)

右のグラフは、業務用消費者の省エネ(節電)空調機器の導入意向です。この結果によると、導入意向を持つ潜在需要層は40%を超えています。

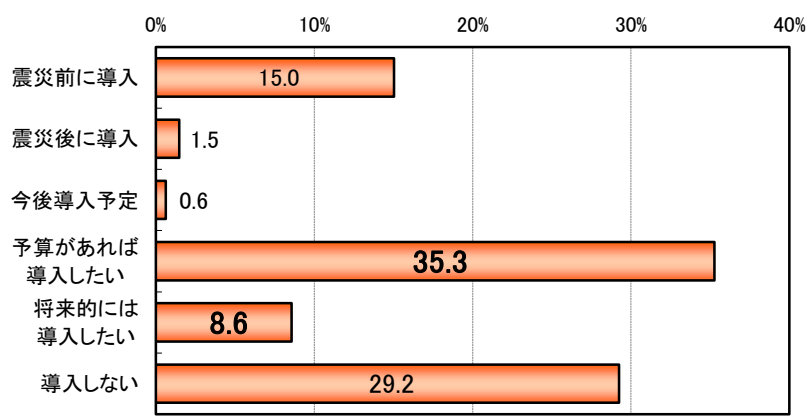
また、導入しないと回答した消費者への面談ヒアリングでは「今は導入しないという意味」との言葉も確認しました。そのため、導入を全く否定している割合は、実際にはさらに少ないと考えられます。

さらに、東日本大震災後の節電意識

と導入意向の関係を調査したところ、1/3以上の消費者が「関係ある」と回答し、業種によっては半数近くに上りました。

なお、以上は空調機器についての結果ですが、厨房機器や給湯機器に関しても、同じような傾向が見られました。

■図3 Q. 省エネ節電機器(空調)の導入意向はありますか？ 無回答除く



トピックス4

それでも進んでいない、高効率LPガス機器の取り組み (業務用調査結果)



上掲(図3)の結果でも分かる通り、東日本大震災以降の全国的な節電意識の高まりもあり、LPガスは電気に代わるエネルギーとして、業界を挙げて積極的に展開していく必要があります。その中でも、GHPエグゼアや涼厨といった高効率LPガス機器は、大幅な節電効果が期待できる有効な手段として推進が求められます。

しかし今回の調査では、残念ながらそれらの導入率はわずかにとどまるという結果が出ました。また面談ヒアリングによって、認知度も極めて低いことが分かりました。

今夏も節電の必要性が取りざたされてはおりますが、数値目標は定められないなど、以前に比べトーンダウンしている状況は否定できません。消費者に節電意識が残っている今のうちに、高効率LPガス機器の優位性を訴え、電力依存からの脱却を提案していくことが、大切なお客様を失くさないためであり、我々が果たすべき社会的な使命でもあるのではないのでしょうか。



以上、調査結果の概要について、4つのトピックスをご紹介いたしました。なお、さらに詳しい内容につきましては、当センターの「研究成果等発表会(10月8日開催)」において解説を行います。

具体的には、家庭用では「LPガス消費者における地域別、月別のLPガスと電気の使用量」や、「自由料金認知度の経年比較」など、業務用では「業種別の機器保有実態」や、「LPガス販売事業者に対する評価」などがあります。ほかに、興味深い調査結果を多数ご紹介する予定です。LPガス販売事業者の皆様におかれましては、今後の需要拡大に向けた取り組みの参考にしていただければ幸いです。

(技術開発部 平原主任研究員)

広 報

◆平成25年度「LP ガス講習会」の開催案内

広報室では一般消費者、消費者団体、地方公共団体及び地域事業者団体等に対して、各地で「LPガス講習会」(無料)を開催しています。

全国の消費者団体、地方自治体及び業界団体へ講習会開催案内を送付し、各団体の要請を受け昨年度(24年度)は20回実施いたしました。講習内容は、LPガスの概要、家庭用LPガスの取引、災害対応、環境、安全、需給、流通、エネルギーのバランスのあるミックス利用の考え方等、主催者様の要望も踏まえた内容となっています。また、LPガスガイドを2013年3月に更新し、講習会でも活用しています(ホームページをご覧ください、ダウンロードしてご利用ください)



◆平成25年度「液化石油ガス地方懇談会」の紹介

毎年液化石油ガス地方懇談会を全国で開催していますが、今年は関東を2か所に分け全国10か所で行います。また災害対応におけるLPガスの活用に対する理解を深めることを目的に「災害対応石油ガス懇談会」を実施予定です。消費者団体、学識者、LPガス販売事業者、行政関係者等からLPガスの流通や取引に関する諸問題に対して意見交換、情報共有を行います。



2012年開催風景

◆本年「LPガスのある暮らし2013年」の紹介

LPガスをお使いの一般消費者向けに啓発活動の一環としてパンフレットを作成しています。本冊子では、LPガス知識の紹介、家庭用LPガス料金の仕組み、適時適切な話題を選び、消費者目線で分かりやすく紹介しています。2013年度も前年同様、70万部を作成し、消費者団体、自治体及び事業者を通じて配布、または「LPガス講習会」の開催時等に消費者の皆様にお届けします。

(参考:2012年版「LPガスのある暮らし お得な活用編」)



◆平成25年度LP ガス広報企画委員会の開催

平成25年6月27日(金)当センターにて第1回広報企画委員会を実施しました。広報企画委員会は、経済産業省からの受託事業である石油ガス流通合理化調査事業の実施にあたり、消費者団体、学識者、LPガス関連分野の専門家等から意見を頂き、作業内容及び諸問題等の検討を行うものです。本年度も年2回実施する予定です。

(広報室 富田室長代理)

編集後記

去年の春ごろ、ひょんなことから「バードウォッチング・フェスティバル」に参加したのをきっかけに、バードウォッチングなるものにはまってしまいました。以来、休みの日など各地の「探鳥会」に参加しています。

最初は、ヒヨドリやムクドリすらよくわからない全くの素人でしたが、いまではいろいろな鳥の姿や鳴き声が脳みそに刻み込まれています。

不思議なもので、通勤時に道を歩いても鳥の声にはすぐに耳が反応してしまいます。以前ならば雑音の中の一つでしかなく何ら注意を惹かなかった鳥の音が、いまでは雑音の中から浮かび上がるように聞こえてきます。それだけではなく声と同時にその姿までもが脳裏に浮かんでくるのです。

視野の中を動くものが横切った時、とっさに鳥かどうかを判断し、その種類まで見極めてしまいます。決して視力が良くなったわけではないのですが。

ある分野についての知識や経験を身に付けると、これまで見えなかったものが見えてくるということでしょうか。

これは決して、バードウォッチングだけの話ではないでしょう。これまで知らなかったあるいは未経験の分野についての知識を新たに身に付けることが、自分を取り巻く世界をこれまでとは違った角度から見直すことにつながるのだと思います。

探鳥会では大勢で鳥を見つけることになります。一人の目より多くの人の目で探した方が、見つけやすいのはいうまでもありません。また、鳥についての知識を各人が披露しあううちに、自分の知識も増えてきます。知識が増えれば、見つける能力もまた向上するという好循環が生まれるのです。

仕事も同じです。新しい分野について調べ、関係者が集まっているいろいろな情報交換を行うことで、これまで見過ごしていたビジネスチャンスを生かすことができるのではないのでしょうか。そんなきっかけを作る場を提供するのも振興センターの大事な仕事の一つだと思います。おっと、趣味を仕事に結び付けて考えるなどは、あまりよい趣味とはいえませんね。

本編でも紹介しましたように、7月から役員の体制が新しくなりました。今後とも業務の充実に努力してまいりまいる所存ですので、引き続きよろしく願い申し上げます。

(専務理事 菊岡)



PG 一般財団法人
CENTER エルピーガス振興センター



〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目19番5号 虎ノ門一丁目森ビル4F

TEL : 03-3507-0041 (代表)
03-3507-0046 (広報室)

FAX : 03-3507-0048

ホームページURL : <http://www.lpgc.or.jp>

Eメールアドレス : info@lpgc.or.jp



♪ 送付先変更等のご連絡は、FAX又はEメールでお願いします ♪

変更届はこちらからダウンロードできます

<http://www.lpgc.or.jp/corporate/inquiry>